

古城逍遙 小堤城山城

●区 分／山城
●築 城／室町時代
●城 主／永原氏(?)
●遺構状態／★★★
●取材日／2012年2月21日



堀切に沿って連なる見事な石垣の遺構。郭群の東端に位置する。

佐々木六角氏の家臣 永原氏築いた詰城か!?

一般に、城郭に石垣が多用されるようになったのは、16世紀後半の安土城築城以来といわれているが、それ以前に築城された佐々木六角氏の観音寺城がすでに大規模な石垣をめぐらせていましたことは前号で紹介したところ。近江守護職・六角氏の強い勢力下にあった周辺の家臣の城にもそれが顕著に表れているようだ。

野洲市と蒲生郡竜王町にまたがる鏡山山系のひとつ、城山の尾根上にある小堤城山城は、六角氏の有力家臣・永原氏が15世紀末に築いたと考えられている。もともとは六角氏の家臣・馬淵氏の被官だったが、その後独立して勢力を伸ばし、16世紀前半の頃から六角氏と主従関係を結ぶようになったという。

小堤城山城は、近江南部では最大規模の中世城郭で、山頂部の郭(曲輪)は

狭いが、中腹部にある郭群は比較的面積が広く、石垣が多く使われていたことが、その遺構からよくわかる。平野部にあった永原城(野洲市上屋)が、普段の居住場所だったと考えると、この城は有事の際に立てこもる詰城ではなかったのか。城跡に立つとさまざまな想像がふくらんでくる。

希望が丘文化公園の 登山口からアプローチ

城跡のある鏡山山系の西尾根は、希望が丘文化公園の北稜にある。今回は公園のハイキングコースを利用して、城山山頂からその北側の中腹にある郭群を散策してみた。

公園の「西ゲート」バス停から芝生広場奥の「憩の橋」を渡り、フィールドアスレチック場受付前から林道を道なりに北へ進むと城山登山口がある。しばらく登ると稜線へ出る峠ルートと城山直登ルートの分岐。

直登ルートには石垣が残っている。急斜面を登ると城山山頂だ。

山頂から西の尾根には段状に小さな郭が連なり、祠(城山の神)の先からUターンするように山の斜面を東へ横断すると、いよいよ小堤城山城の主要部。主郭は中腹の谷部にあり、それを防御するように両側の尾根上にいくつかの郭が配置されている。深い堀切や保存状態の良い石垣が点在していて、発見するたびに思わずため息が出る。主郭部から北側に下る道が登城道のようだ。この道の両側にもいくつもの郭が連なっている。知名度の低い城跡だが見応えは十分だ。

ちなみに、北側の小堤側にも登山口があり、案内ルートも整備されているが、国道8号から入る林道には施錠されたゲートがあり、小堤側からアプローチしても無断で立ち入ることができないようになっている。希望が丘文化公園を起点に散策するほうが無難だろう。



北稜ハイキングコースと 古城山の岩倉城の遺構

城山山頂から鏡山へ縦走する北稜ハイキングコースがある。城山から東側の急斜面を下り、起伏の豊かな尾根道を東へ進むと「古城山(ふるしろやま)と岩倉城・桜本坊と桜本池」の説明板がある。古城山のピークは北稜コースの少し北にあり、北側斜面に岩倉城(別名・古城山城)と呼ばれる城跡がある。佐々木六角氏の家臣・馬淵氏が築いた城郭で、小堤城山城より歴史が古いものと思われる。木立の中に郭跡や石垣の一部が残っていて、山頂付近には「桜本坊」という寺(明治以降は神社となり「桜本社」と称する)もあったようだ。



北稜コースにある「古城山と岩倉城・桜本坊と桜本池」の説明板。



①城山山頂

希望が丘文化公園から城山直登ルートを進むと山頂直下の急斜面に2方所の石垣が確認できた。標高286mの城山の山頂からはほぼ360度の眺望が楽しめる。南に秀麗な三上山が間近に迫り、東には鏡山へ連なる山稜が美しい。この山頂部の尾根には段状に小さな郭が連なっている。



②主郭周辺の堀切と石垣



(上)東端の郭にある堀切と石垣。城内で一番の見どころだろう。(右)城郭群の案内標識。道迷い防止用の分岐点番号を表示した杭も立てられている。

主郭部のまわりの尾根上に大小の郭がいくつも配置されていて、そのいくつかは大規模な堀切で区切られている。堀切を通って郭群を散策することになるが、郭を囲むように積まれた石垣には大きな自然石が多く使用されていて、粗削りながらも初期の城郭のダイナミズムを感じさせる。



③主郭部と虎口

尾根の郭群をめぐらながら、大きな堀切を越えると谷部の主郭部に出る。山城の多くはその最高部に主郭を構えているものだが、こういいう縄張はちょっと珍しいのでは? この西側が虎口だ。主郭直下で登城道が鍵状に折れ曲がっている。虎口につながる急坂にも苔むした石垣が確認できた。

